平成29年第10回西予市教育委員会定例会　会議録

Ⅰ　開会の月日及び場所

平成29年10月30日（月）

西予市教育保健センター４階　第二研修室

Ⅱ　定数

５人

Ⅲ　出席者

教育長	保木　俊司	委　員	上甲　和博
委　員	山本　惠子	委　員	樋口　美和
委　員	平岡　長治		

Ⅳ　欠席者

なし

Ⅴ　議事に出席した公務員の職氏名

教育部長	松川　伸二	教育総務課長	沖村　　智
学校教育課長	大谷　元二	生涯学習課長	小玉　浩幸
文化体育振興課長	土居　眞二	明浜教育課長	佐藤　俊治
野村教育課長	岡上　昌造	城川教育課長	谷口　佳代
三瓶教育課長	滝野　広明	教育総務課長補佐	麓　　寿春
教育総務課係長	小田原　誠	教育総務課係長	薬師寺ふみ

Ⅵ　会議の概要

１　開会

教育長　　午前９時開会を宣する。

２　会議録の承認

教育長　　平成29年第９回教育委員会定例会会議録について意見を求める。

全委員　　特になし。

教育長　　平成29年第９回教育委員会定例会会議録の承認について諮る。

全委員　　異議ない旨答える。

教育長　　第９回教育委員会定例会会議録を承認する旨宣する。

3　行事報告及び行事予定について

教育長　　10月の行事について報告する。

　　11月行事予定について意見を求める。

教育総務課長　　11月行事予定について報告する。

全委員　　特になし。

教育長　　平成29年第11回教育委員会定例会の開催日程について意見を求める。

教育総務課長　　平成29年第11回教育委員会定例会を11月21日（火）午後2時から開催する旨提案する。

教育長　　平成29年第11回教育委員会定例会を11月21日（火）午後2時に開催する旨宣する。

3　案件

○承認第6号　　専決処分第6号の承認について

教育長　　事務局の説明を求める。

学校教育課長　　平成29年度西予市要保護及び準要保護児童生徒の認定について説明する。

教育長　　専決処分について意見を求める。

全委員　　特になし。

教育長　　専決処分の承認について諮る。

全委員　　異議ない旨答える。

教育長　　審議の結果、承認する旨宣する。

4　協議・報告事項

教育長　　前回定例会で説明した宇和地域の小学校再編について協議をさせていただく。

　　年内には宇和地域の再編の方向性についてめどを立てたいと考えている。地域住民及び保護者への説明会が終わり、その結果を踏まえてどのように対応するのかを市民に報告しなければならない。

　　前回の定例会での説明を聞かれたうえで、各委員がどのように考えられているか意見を伺った後、西予市小学校再編計画を見直しすべきか、見直しをするのであればどのようにするのか、いつごろにするのか、どのような手法でするのかというふうに焦点を絞って協議したいと考えている。

　　西予市小学校再編計画について意見を求める。

上甲委員　　西予市小学校再編計画が策定されて8年になるが、最初は平成18年に各旧町から有識者が出て、西予市立学校教育に関する検討委員会が設置され、適正な学校規模等の西予市立学校教育に関する諸課

題について、協議を行い答申を行った。この時には私も委員の一人として関わったが、その答申の中にできるだけ複式学級を解消するということが入っていたことにより、教育委員会が答申を受けて、具体的な学校再編について、西予市学校再編検討委員会を設置して諮問した。

現場の教員が学校の統合問題について、委員として関わらないほうがよいと思っていたため、西予市学校再編検討委員会では委員から外れてオブザーバーとして関わっていた。

その西予市学校再編検討委員会の答申では、宇和地域は２校とする案であったが、その後再編計画では３校になった。２校から３校に変更になった経緯は詳しくは分からない。

明浜、野村、城川、三瓶地域は計画どおりになって、子どもたちは統合後も順調に学校生活を送っているようである。

宇和地域で４月に統合した皆田小学校の保護者に話を聞くと、統合して良かったということを明間の方が言っていた。

残りの宇和地域の統合については、年代によっても考え方が違っていたり、様々な意見がありまとめるのは難しいと感じている。計画策定から８年が経過して保護者の考え方も変化してきており、方向性としてはもう一度検討委員会を立ち上げなければ、このまま教育委員会が方向性を出しても地域としては納得しにくいのではないかと感じている。各地域の有識者を集めて検討委員会を立ち上げてはどうか。有識者には各地域の意見を吸い上げてもらわなければ再編は難しいと感じている旨述べる。

山本委員　惣川中学校が野村中学校へ統合、大和田小学校が野村小学校へ統合した際に統合を現場の教員として経験した。

その際は、複式学級を解消するという大きな目的があって、地域や保護者も少ない人数よりも多い人数の中で練り合い高め合うという教育環境を作っていきたいという思いがあったため、前に進めたように思える。

統合するということは、地域、保護者、子どもたち、教員にとって大変な労力を要するものだが、統合したそれぞれの学校の子どもたちを見ると、統合して良かったという思いである。

統合していない地域の行事に参加していると、統合は必要はないという声が保護者よりも地域住民の方から多く聞こえてくる。全体的に統合は現時点では必要ないという意見が多いと受け止めている。

これからの児童数の推計が出て状況が変わってきているため、現

在の再編計画で進めていくのは難しいと感じている旨述べる。

樋口委員　自分の子どもが蔵貫小学校から三瓶小学校への統合を経験し、明間小学校の閉校式に出席して、蔵貫小学校も明間小学校も統合した際は同規模で、人数的に両校の規模であれば、統合して勉強したほうが子どもたちは勉強しやすいのではないかと感じた。

複式学級ではなくても１学級４名だったこともあり、例えば体育の授業では整列させても４名しかいなく、競い合ったりすることはほとんどなかった。子どもに聞いてみると、友達が増えたとか、今日はどのようなことがあったとか、出来事がたくさんあり、統合して良かったと感じている。

統合の話を地域でする際は、地域住民からの反対意見はかなり多く、保護者は逆に統合に賛成の意見が多かった旨述べる。

平岡委員　宇和地域を除く４地域は計画どおり統合が完了したが、４地域は拠点となる学校がはっきりしていて、他の小学校の人数が少なくなっており、複式学級まではいかなくともそれに近い状態にある状況から見て、統合が自然な形であったと思う。

宇和地域の場合は４地域とは状況が違うと感じている。地域住民説明会の意見を読めば読むほど宇和地域の統合は難しいという印象である。発言者は、傾向として再編計画に異議を唱える人が多く発言しているため、現計画の３校体制にかなり抵抗があるように読み取れる。

各小学校の児童数を見ると他の４地域ほどは少なくない状況であり、宇和地域の統合は難しいと感じている。

統合する学校数としては、３校か２校か１校だと思うが、現実にそれぞれの学校数に対してどのくらいの抵抗があって、どういう形ならば実現できるのかということを考えた場合に、２校体制はかなり難しいのではないかと感じている。宇和町小学校を２つに分けるとなった場合、宇和町小学校の子どもたちや保護者からは相当激しい抵抗が出てくる気がする。

現計画の３校体制では、新校舎の場所を決めて建設するとなると、どこに学校を設置するかは相当難しいのではないか。

実現性からすると、宇和地域は１校で、現在の宇和町小学校の校舎を拡充した中で、一斉に統合するのではなく、一定の人数を割ったところから段階的に統合していく形が一番抵抗が少ないのではないかと感じている。

個人的には３校体制でもいいのではないかと思っている。統合に

は基本的に賛成で、今の子どもたちの課題を考えた時に、社会の中で人と交わりながら生きていく力を養うことが重要だと思う。人と交わりながら生きていく中には助け合いなど温かい面がある一方、厳しい面もある。大人になり社会に出て人生を歩んでいくことを考えると、ある程度の規模の中で人と交わる訓練をしておいたほうが将来のためになるのではないかという考えを持っている。小規模校は家庭的な雰囲気の中で細かくひとりひとりを見つめた教育はできるが、ある程度大きな集団の中で厳しい状況に置かれても乗り越えて生きていけるような、そういった力をつけることも必要だと思う。

子どもが多い時代は、貧しい中で人にもまれて日常生活を送ることが多かったため、自然に生きる力が身についていたが、現在は少子化と物質的豊かさの時代になっており、このような状況下で子どもが育っていることを考えると、せめて学校はある程度の規模の中で人と交わる体験を積んでいくことが重要であると考える。これをするには1学年が10人を切るような状況では難しいのではないかという気がしており、宇和地域であれば少なくとも3校に統合して、学校生活を送ることが子どものためにはいいのではないかと感じている。

現在の計画を策定したのは平成21年だが、検討し始めたのはそれ以前であり、年数が経過していること、また、これまで宇和地域の大多数の人にとっては統合は直面した問題として受け止められていなかったことなどもあるので、新しく検討委員会を立ち上げて再度検討するほうがよいのではないか。現在の3校計画をそのまま進めるのは、かなり難しいと感じている旨述べる。

教育長　各地域とも地域住民説明会の参加者がかなり少ないということが強く印象に残っている。少ない理由は、統合が差し迫った状況にないと感じていたり、あまり緊迫感を持って考えられていないという雰囲気があったのではないかと感じた。

参加者の意見では、現計画の3校案を支持する人は少なかったため、何らかの見直しは必要であるということが大勢であるというよりも、ほぼ一致した意見ではなかったかという感じを持っている。

現在の3校案について、2校であったものが3校になったことについて問題視して、異議があるという意見が相当数あった。今過去の話をしても仕方ないのかもしれないが、それなりの手続きを踏み現在の計画が策定されている。その過程で市民が十分な情報を得ていない、また見えていなかったことが原因としてあるのだろうと思

う。今後の検討にあたっては、見える化を意識してやっていかなければならない。

一義的には教育機関の設置ということで教育委員会の権限に関わることである。一方で財政面、全市的な問題でもあるため、市長部局に関わることでもあり、条例、予算で議会との関わりも出てくる。全市を挙げて合意を得なければならないことでもある。手続等諸々の事柄が市民によく見えるということを意識して進めていかなければならないということを思った。

各委員におかれても現在の３校案は難しいのではないかという意見の一致はあったのではないかと感じられた旨述べる。

見直しは何らかの形で行わなければならないという点について、意見を求める。

上甲委員　平成21年に策定される２年前に話のあった適正規模について、人数のことだけを考えて、宇和地域は２校なんだろうということになっていて、市の結論は出ていなかった。その後、西予市学校再編検討委員会で２校案を答申したが、この２校案はどのように市民に伝わったのか問う。

教育部長　２校案で答申をいただいた。その２校案の答申内容についての意見を聞き、教育委員会としての判断材料としたいという趣旨で住民説明会を開催したという過程がある。２校案は教育委員会としての結論ではなく、素案である。

その時点で２校案という情報が市民に伝わったことになる旨答える。

上甲委員　校区は関係なく２校案であったのか問う。

教育長　答申は２段階に分かれており、まず中川小学校と多田小学校を統合する。そして明間小学校と皆田小学校を統合する。その後児童数の推移を見ながら中長期的に２校にするという答申であった。

２校案は、宇和町小学校を割って、宇和町小学校の一部と多田、中川、石城の各小学校を統合するということであったが、多田小学校では第一段階での中川小学校と一緒になることへの抵抗がかなりあった。様々寄せられた意見を集約する形で一度に統合するということで３校案になり、３校案についても住民説明会を行い、パブリックコメントを行い意見を聞いたが、それが見える形で検討することが十分でなかったのかもしれない。

今回開催した住民説明会でも今後いつ、どういう形で検討し、会議は傍聴できるのかという意見もあったため、教育委員会で公開し

て行う旨を回答している。

検討過程を後で見ても分かるようにきっちりと会議録を残しておく。

統合自体に真正面から反対するという意見は余りなかった。統合はやむを得ないという認識はあると感じた。統合をするかしないかまで話を戻してしまうと、今まで協議してきたものを否定することになる。統合は避けられないものである。

何らかの形で計画を見直し、統合は進めていくということを考えている。

住民説明会を終えて今後どのようにするのかを市民に問われた場合、白紙と答えるわけにはいかない。先ほどから意見にあるように検討委員会を立ち上げて仮に協議するにしても現計画は存在し、その過程で有識者に意見をいただいて現計画が策定されているという事実はあり、現計画がありながら今まで何もなかったように今から検討委員会を立ち上げて、一から検討するというのは手続きとしてはいかがなものかと思っている。検討を進めるといった場合、少なくとも現計画は見直すということを表明しないといけないのではないか。住民の意見を聞いて白紙にするのではなく、３校案という現計画の上に住民の意見が加わっての判断ということなので、一定の方向性というのは少なくとも出さなければならないと思っている。

２校とか１校とかに絞りきるということは、検討委員会で検討してもらうとしても、少なくともどういう方向で検討してもらうということまでは示す必要があり、見直しをする以上、３校案はまずなく、さらに集約する形で見直すという方向を示す、これは最低限度必要ではないかと考えている旨述べる。

平岡委員　今後、１校案ではどうか、２校案ではどうかという検討をしていくと、結局逆戻りして、やはり３校案になることもあり得ると思う。最初から３校案を排除せず、これから協議の流れの中で宇和地域の地域住民の関心が深まっていく中で３校案がいいということになれば、３校案も最終的には１つの選択肢としてあるということは考えられるのではないか。

１校案にしても２校案にしても、協議をする中で様々な問題が浮かび上がってくることは想定される旨述べる。

教育長　地域住民説明会に参加した人からすれば、自分たちの意見を反映した形で今後の協議をして欲しいということはあるだろうと思っている。必ず住民の意見に縛られることはないにしても、３校案とい

う現計画の上に様々な意見を反映する形で協議を行い、白紙委任という形ではないことを感じている。

まだ統合する時期ではないという受け止めも強かったように思えた。差し迫った問題ではないということにつながっていくが、今の時点で具体的に協議して結論が出て手続きに移っていいのだろうかという気もしている。

明間小学校と皆田小学校が統合して、一度統合を経験した子どもたちに在学中に再度統合をする訳にはいかないということから、７年程度の間隔を空けて統合するというような意見もあった。それを考えると計画どおり３校に統合するにしても下宇和地区は７年後にということになるし、見直すにしても下宇和地区の事情が他の地区にも影響するので、宇和地域の統合自体がその期間を空けてやらなければならないことになる。

このようなことを考えると今の時点で早々と結論を出すことについてどうなんだろうかという思いを抱いている旨述べる。

上甲委員　地域住民説明会の意見は宇和地域の数パーセントの出席者の意見で、発言したい人は参加するが、発言したいけどなかなか発言しにくい人は参加しないということがあり、本当に住民全体の意見なのかという疑問がある。

３校案になぜ抵抗があるのか、原因をもう少し検証する必要がある。住民側の意見だけでなく、行政側の立場からの検証も必要である。

宇和中学校の１年生学級が４学級でそれでも南予で一番大きい。児童数の推移からすると宇和中学校は当面、これ以上にならないし、これ以下にもならない。

３校案、２校案、１校案それぞれのデメリットを再度細かく整理してみて、皆田小の１年生が卒業するまでの間に大まかな方向性を出し、例えば年度に分けて統合するようなこともできるのではないか。

教育に関するメリット、デメリットだけではなく、行政側からの視点も教育委員会として考えていく必要があるのではないか。

今は３校案がいけないのか、２校案がいけないのか、１校案がいけないのかまだ漠然としている。きっちり整理をしてどれが一番抵抗が少ないのか検証する必要がある。

学校現場に情報が入ってこないため、学校現場に情報提供を行って欲しい旨述べる。

教育長　今後の児童数の推移については、現在生まれている子どもたちの推移はある程度確定的で、それ以降の推計は西予市人口ビジョンに基づいた児童数の推移を推計して、各学校区の説明会で説明をしたところである。推計によると相当数児童数は減少していくという傾向がはっきりしていて、そういった中で、「少なくなるのであれば統合は避けられない。」、あるいは「現在の３校案では次の統合をしなければならないのは目に見えている。」、また「行政的に見てもコストがかかりすぎる。」という意見が多かった。

現在、宇和地域には複式学級はないが、児童数の推移を見ると近い将来、学校によっては複式になるであろうと推察される。

現在の計画では、平成29年の段階で複式になっているだろうという推測であったが、実際にはそうなっていないという現実もあるので、推計自体が絶対的なものであるものではないが、かなりの児童数の減少は避けられない。

学校の先生の意見がなかなか聞こえてこないということがあるが、校長会等へ統合についての意見は遠慮なく寄せてほしいということは伝えている。先生方からは現状の中で与えられた仕事をするという意識が強く感じられ、統合について具体的な意見は聞こえてこない。一定の方向性が出れば従ってもらう必要はあるが、学校、児童、保護者の状況を一番分かっている先生方に、方向性が出るまでの間、感想なり考え方を基にした提言ということであれば、歓迎するというスタンスである旨述べる。

上甲委員　現場の先生方は、意見を求められていることは認識しているが、現場としては意見は言わないほうがいいという考え方を持っている。統合に関する個人的な意見は言うべきではないと指導されてきた旨述べる。

教育長　現場の先生方が意見を言ってしまうと、意見がぶつかり合い、コミュニケーションが取り難くなるのではないか、また組織的な一体性が崩れてしまいどうだろうかという懸念はあるだろうと思うが、そこはそれなりのわきまえを持ってもらい、積極的に協議に関わってもらうことは何も問題ないと思っている。

次回は、児童数の推移や校舎の耐用年数による建て替えを考慮した上で、協議をすることが現実的だと思うので、そのための資料を次回に提示させていただく。

各委員から提示して欲しいような資料はあるか問う。

上甲委員　宇和町小学校の収容人数を提示して欲しい旨述べる。

教育総務課長　現行の計画として、複式学級の解消が大きな目的であり、明間、皆田の統合により解消できた。これについては、明間地域の子どもたちから学校へ行くのは楽しいという意見が約90%出ている。

皆田地域の子どもたちからは 100%の子どもたちから学校へ行くのは楽しいという意見が出ている。

複式学級のことを考えると、児童数の推計では平成31年、32年になると田之筋や多田小学校で複式学級が現実的に起こる可能性があるという推測になっている。段階的に統合してもいいのではないかという意見もあり、様々な状況を踏まえながら検討していく必要があると思っている。

現計画での２学級か３学級が学校の適正規模ということを考えると、宇和地域全体では18学級になるのは、児童数の推計からすると平成52年頃と考えられ、23年先になる。このことについてもどのように考えていくか、方向性を出す検討材料の一つになるだろうと考えている旨報告する。

教育部長　宇和地域の地域住民説明会で生の声をたくさん聞かしていただいた。個人的な考えとしては、見直すべきではないかと感じているところである。

委員会では、現計画を見直すのか、見直さないのかということを判断していただくことを、事務局としては望んでいる。

仮に見直すとなった場合に、現行の３校案では無理があるから見直していくのか、それとも見直す過程の中で、３校案も視野に入れて見直していくのかということについて協議していただきたいと思っている。

年内には、昨年今年と開催した地域住民説明会後、教育委員会としてこういう方向性を出したということを、市民から問われた際には説明できるような状況にしていきたいと考えている。11月の委員会では、その方向でぜひご協議いただきたい。

教育長　暫時休憩する旨述べる。

【暫時休憩】

教育長　午前10時35分再開を宣する。

今までの宇和地域の再編協議に関して他に意見を求める。

平岡委員　西予市学校再編検討委員会の答申であった２校案について、現在の宇和町小学校を使わずに新たに２つの小学校を作るという内容であったのか問う。

教育長　答申では宇和町小学校に田之筋、皆田、明間の各小学校を統合し、

宇和町小学校区の一部と多田、中川、石城の各小学校で新しい学校を作ることになっている旨答える。

平岡委員　　新しい学校を作るのではなく、宇和上地域の３校のいずれかに統合するということは難しいのか。

山本委員　　２校案の場合、宇和町小学校を分けないという方法を考えられないのだろうか。

教育長　　引き続き、次回の教育委員会において協議したい旨述べる。

5　その他

教育長　　その他の件について意見及び報告を求める。

野村教育課長　　第 166 回乙亥大相撲開催内容について報告する。

全委員　　特になし。

6　閉会

教育長　　午前 10 時 40 分閉会を宣する。

議事録署名

以上、平成 29 年第 10 回西予市教育委員会定例会の顛末を記録して相違ないことを証明する。

平成 29 年 11 月 27 日

教育長

保木 俊司

教育委員

上甲 和博

教育委員

山本 恵子

教育委員

植田 美和

教育委員

平岡 長治